



わらしこ 8月の園だより

我が子が、親と遊んでくれる夏は、あと何回あるでしょう（個人面談のお礼）

我が子が「パパ、一緒に遊ぼう！」「ママ、見て見て！」と親を誘ってくれる夏は、思っているほど長くないのかもしれない。小学校高学年になれば友だちとの時間が増え、中学生になれば部活動も始まります。今の我が子と、今の距離で過ごせる夏は、もう10回もないかもしれない…。そう考えると、何気ない毎日も、今しか見られない大切な時間に思えてきます。

先日は、個人面談へのご協力をありがとうございました。ご家庭では甘えてご飯を食べさせてもらっている我が子が、園では自分でスプーンを持ちご飯を食べていたり、お当番活動に張り切っていたり。お風呂も苦手なのに、水遊びで笑顔いっぱい遊んでいた。反対に、ご家庭で見せる姿を教えていただき、私たち保育者が新しい発見をすることもありました。園と家庭、それぞれで見える姿を伝え合うことで、その子への見方が広がり、関わり方もよりその子らしいものになっていきます。

この夏は、ぜひ担任に「今、うちの子は何に夢中ですか？」と聞いてみてください。虫探しが好きなら一緒に夜の虫取りへ。水遊びが好きなら、お風呂でプールごっこを。赤ちゃんは、たかいたかいやふれあい遊びをたくさん楽しんでください。特別なお出かけやお金をかけなくても大丈夫です。園で見つけた「好き」をご家庭でも一つ楽しんでみるだけで、この夏はきっと特別な夏になります。そして、おじいちゃんやおばあちゃん、親戚やお友だちにも、今しかない我が子のかわいい姿をたくさん見てもらってください。子どもは、多くの人に愛され、多くの人に関わってもらうほど、その分だけ世界が広がっていきます。園とご家庭で子どもの姿を伝え合い、その子に合った関わり方を一緒に考えていくことが、「共に育てる（共育て）」につながります。今年だけの夏を楽しんでいきましょう。



家では見られない一面がありました

大雨による延期や川の増水、子どもたちの体調など心配もありましたが、夢たちばなビレッジへ着くと、「先生！カニがおった！」「鮎つかまえた！」と、あっという間に自然の世界へ飛び込んでいきました。夜の保育園探検では、「怖い…」と立ち止まる子もいましたが、「一緒に行こう！」という友だちの声に背中を押され、一歩ずつ前へ。いつもより頼もしい姿がたくさんありました。

自然の中では、思い通りにならないことがたくさんあります。だからこそ、「どうしよう」「一緒にやろう」と考えたり、友だちに助けてもらったりする経験が、子どもたちを少し大きくしてくれました。年長さんは、今度はぜひ家族の案内役として夢たちばなビレッジを訪れてみてください。「ここで鮎を捕まえたよ！」そんな一言から、親子の会話もきっと広がるはず。年中さん以下は、おとまりキャンプの予習として自然体験を楽しんでみてください。



林明子さんの絵本は、今も子育ての大切なことを教えてくれています。

先日、『はじめてのおつかい』『こんとあき』など、数々の名作を残された絵本作家・林明子さんが亡くなりました。子どもたちも大好きな作品ばかりです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

園で読み聞かせをしていると、子どもたちは主人公を応援したり、一緒にドキドキしたりしながら、自分のことのように物語へ入り込んでいきます。それは、林さんが実際の子どもたちを何度も写真に撮り、表情やしぐさ、子どもならではの気持ちを丁寧にみつめながら描いていたからかもしれません。

絵本の中の子どもたちは、失敗しながらも、自分なりに考え、迷い、工夫し、一歩ずつ前へ進みます。そして最後には、必ず安心して帰れる大人が待っています。子どもは安心できる場所があるからこそ挑戦できます。園でもご家庭でも、子どもの「やってみよう」を信じ、安心して挑戦できる毎日を大切にしていきたいですね。

